

英彦の泉

聖母の騎士学園
同窓会会報

☎850-0012

長崎市本河内2-2-2

TEL095-823-4523

FAX095-823-4759

- 第29号 -

同窓会の会長を 受諾します



同窓会会長
里脇 岩男

同窓会の皆さん初めまして、私は聖母の騎士???期の神学生です。

わたしは、先々の同窓会会長の、赤本喜代次君と同じクラスです。

赤本君が会長を務め、体調不良となつて、そのあとを、竹内松雄君が会長を引き受けて頂いたと聞いています。竹内君の訃報で、その後の同窓会会長の選出に悩んでおられたようです。そんな中、誰が言い出したのか分かりませんが、私のところに届いてきました。

少し私の、神学生の頃、こんにちまでを紹介させていただきます。

中1〜高2中までの5年間、聖母の騎士学園でお世話になりました。

今振り返ってみると「一人じゃなかった」、どんなときにも「本当に一人じゃなかった」……と思う今日で

す。神学校を後にするときも。40日間の聖体訪問。そうして神学校を後にしました。

それからは、父の家業の鉄工所を手伝いながら2年ほど遊び9割、手伝い1割の毎日を過ごしてきましたが、手伝いを初めて、二年ほどで父が他界し、19歳の私と16歳の弟(豊)と2人で、昨年まで56年間、家業の鉄工業を続けて来て、76歳になり、私と弟、豊の子供と私の子供に譲り渡したところです。

56年の間いろんな順境、逆境、風雨にもまれました。そして多くの方々に助けられてきました。

何がきっかけだったのか27〜28歳の頃から朝ミサにあずかり始め、今日まで朝ミサにあずかり、聖体を授かって、イエズス様と一緒に働き続けてき

たつもりです。

無原罪の聖母マリア様の、不思議のメダイをなくした時、マリア様に夜逃げされたかと、必死に今日一日の行動範囲を真夜中、懐中電灯を片手に明け方まで探し回った。この時は本当に必死に探し回った。「貴女なしでは不安が多くて……生きていけません。」と思うほど必死にさがしまわりました。けれど、見つけきれなかったのです。

ただ私は信じようと祈った。「絶対に戻ってきてくださる」と信じて。翌朝、豊がニコニコ笑いながら、「兄さん、これ失くしたろう、マリア様から逃げられたな!!」しかし戻って来て頂いて、感謝の気持ちいっぱいでした。本当に、ありがとう。信じて祈ることをまた一つ覚えしました。

世俗に生きる私たち、聖職者の方々も、いろんな悩みを抱えておられると思います。創立者の聖コルベ神父が教えてくださった、疑うことなく信じて祈ること。

幸せには感謝を込めて。苦しみには



不思議のメダイ(イメージ)

原稿を募集してます。

●近況報告を兼ねて「英彦の泉」に投稿してみませんか。同窓生の方ならどなたでも構いません。学生時代の思い出、近況や雑感等々何でもテーマは自由です。出来れば800文字程度にまとめてください。

事務局(熊川)へのEメール、または、聖母の騎士学園へ送付してください。

提出期限は毎年7月20日です。是非、ご協力ください。

●事務局(熊川)のEメールは以下です。
marys-knights-union@ymail.ne.jp



聖母被昇天(ガイド・レーニ・画)

心から無原罪の聖母に、「原罪失くして宿り給いし聖マリア 御身により頼み奉る我らのために祈り給え」。偉そうなこと言いましたが、何かできるならの思いで、この度の同窓会会長の件、よろしく願います。

今を受けとめながら、 より善いものを仰いで



聖母の騎士高等学校
校長 谷崎新一朗

同窓会の皆様、日々聖母の騎士高等学校を支えていただき、ありがとうございます。

修道者としての姿に、感銘を受けました。

キリスト教の精神、とりわけアッシジの聖フランシスコと聖コルベの精神のもと、教職員と共に、生徒一人ひとりを受けとめながら神様のあたたかなところを分かち合うことを根底に、より良い教育活動に努めたいと思っています。今後もご支援くださいますようお願い申し上げます。

兄弟ダミアノ崎濱神父様が、学園理事長として在任中、7月19日に亡くなりました。皆様のお見舞い、お祈りにこころから感謝いたします。神父様は、学園活性化に取り組み、理想通りにいかないことがあっても、善意で行動なさいました。欠点はあるとしても、素朴なあたたかさがあつたと思います。

ホスピスにおられた兄弟ダミアノ崎濱神父様に、「みんなに何か伝えたいことがありますか」と尋ねると、「天国に行けるようお祈りしてもらえたら、それで十分です」と穏やかにおっしゃいました。神様のものに行くことを素朴に願う



と穏やかにおっしゃいました。神様のものに行くことを素朴に願う

兄弟ダミアノ崎濱神父様もわたしも、コンベンツアル聖フランシスコ修道会に属しています。この会の創立者、聖フランシスコは晩年の1225年から1226年にかけて、『兄弟太陽の賛歌（被造物の賛歌）』を作りました。目がほとんど見えず、重い病に伏し、苦しみを感じていましたが、神様から天の国で素晴らしい報いを約束されて、この賛歌を作りました。自然界のものを神様の子どもとして捉え、兄弟姉妹と呼び、それぞれに素晴らしいさを見出し、この兄弟姉妹によって神様を賛美しました。

聖フランシスコはこの賛歌の中で、弱さ、病、困難においても神様のことを大事にし、へりくだって和解し、ゆるし、自然界のすべてのものに仕えるよう、人々を招いています。

本校の生徒には、不安もありのままに受けとめ、支えられ生かされていることを思い起こしながら、感謝と謙虚さをもってあたたかなところで奉仕する精神を大事にしてほしいと思っています。わたしもそのような歩みのお手伝いができたら、と願っています。



子ども達に囲まれて

昭和47年卒業 小島正人

皆様、こんにちは。一昨年まで同窓会の会計と書記をしていました小島です。現在、沖縄で幼稚園の園長をしています。前園長先生が病気で急逝し、崎濱校長先生から社会貢献をしてきなさいと言われ、昨年の4月に赴任しました。皆様からはこの組長ですかと冗談を言われていますが、高校で教えていた頃に廊下の窓から隣の幼稚園を眺めながら、幼稚園の先生は大変だな、私にはとても務まらないと思っていました。そんな私に神さまが試練をお与えになったものと思います。

それでは、日頃の幼稚園の様子を少しだけ紹介します。私は毎朝、幼稚園玄関で園児たちを迎え入れています。登園してきた園児たちは、玄関横のマリア像にお祈りをします。「きょういちにちわたくしたちを

おまもりくださいそしてびょうきやけがをしているひとがはやくよくなりますようにアーメン」と小さい手を合わせ、一途な願いを込めて神様に心を向けてお祈りしています。今も、世界のいろいろな地域で争いが起こっています。争っている大人たちに子どもたちの祈りの声を聞かせ、やさしい心や思いやりの心を思い出してほしいと願うばかりです。

4・5月頃の玄関では、新入園児が保護者から離れられずに、泣いている子が多く見られます。子供たちをなだめながら、時には手を引いてお部屋まで連れて行きます。お部屋につくと、ほとんどの子どもが何事もなかったように泣き止んで、帽子や水筒、カバンを掛け教室に入っていきます。子どもたちの気持ちの切り替えの早さに驚くばかりです。

午前中、たまに園庭に出て子どもたちと一緒に遊ぶというか、遊んでもらっています。すぐに子どもたちが寄ってきて、「鬼ごっこをしようよ」「ブランコを押して」「お団子を一緒に作ろうよ」「見て、見て、うんていできるよ」とあちこちから声をかけられ、手を引っ張られます。本当の「引っ張りだこ」です。高校教員のときには、教師に気軽に声をかける生徒はほとんどいません。遠巻きに適切な距離を取っていました。ところが、こ

ここでは「園長先生」と言っただけがみついてきます。心の中で、「私もまだ、まんざらでもないな」とうれしさにひとり浸っています。そんなことを思いながら、子どもたちのしゃぐ声に包まれて、癒しのときを過ごしています。昼は給食と一緒に食べています。9クラスある教室を日替わりで訪ねています。3歳から5歳までの縦割りクラスで、年長さんが年少さんに配膳をし、食事の前にお祈りの見本を示します。「お父さま、お母さま、いただきます」と言ってから食べ始めます。すると、一斉に話しかけられます。「きのう、どこにいったかおしえる」これは、どこに行ったか聞きたいか。という意味です。「おしえて」と言うと、誰とどこに行って、何をしたかを詳しく教えてください。次から次へと自分のことをしゃべり始めます。うるさくなると年長さんの女の子が「みんな、一緒に話したらわかんないでしょう、順番だよ」と注意してくれました。さすが年長さん、将来はきっとリーダー的な存在になるかもしれないなあと思ったりします。

給食が終わり、午後1時半になると保護者のお迎えの時間になります。玄関前の長ベンチにお行儀よく座り、保護者の顔が見えると嬉しそうな顔をして保育者のところに行き、直立の姿勢から先生の目をしっかり見て「さようなら」と言ってから保護者の元に向かいます。とても礼儀正しい子どもたちです。共働きの家庭も多く、午後6時まで預かり保育で過ごす子どもいます。

子どもたちは、遊びやお友達との関わりの中で日々成長し、その成長を間近に見られる喜びと感動を神様に感謝しています。幼児教育に携わる者として、子どもたちの生涯にわたる人間形成の基礎を築く重要な役割の一端を担っていることに誇りと責任を持って子どもたちと関わっていきたいと思います。

〜関東支部便り〜 全学年が 知り合いになれる

昭和56年度卒 東京在住 阿部正人

万感の想いは、意外とあっけなかった。登野城と大川。石垣島だ。噂に聞いていた海星幼稚園があり海星小学校がある。カトリック石垣教会があった。普通の住宅地である。小学生はいたが水牛はいなかった。ついに辿り着いたのだ。登野城・大川に。47年の歳月が過ぎていた。

石垣島なんてカンタンさ。そう想ってたら47年。同級生の故郷を訪ねています。それが今年は1月の終わりに脳梗塞になった。66日間の入



カトリック石垣教会にて、右の写真は教会の聖堂内部



院。駄目かと思ったが5月1日。医師には告げないで羽田から飛行機に乗った。人気の観光地。昨年の11月にせっかく買った航空券。キャンセルしてしまるか。

あっけなく到達した登野城と大川だったが、3人の同級生を想った。佐



海星小学校の校門



久本亮、清河修治、内間洋晋。高1のとき佐久本から言われて驚いたものだ。

「石垣島はすべてワンマンバスである」。「石垣島には公立の小学校がない(当時はアメリカ進駐時代の事情で現在存在)」。石垣島は鉄道がないから足は船か飛行機。中学になったらみんなスカイメイトを持ってる」。

それは北陸の雪原を特急雷鳥で走ってひかりとかめを乗り継いで長崎に着いた自分には、驚異の世界だった(金沢生まれなんです)。いろんな生徒がいる。日本は広いと思った。なんとこの学校だとも思った。

以来47年。北のテッペンから南の彼方まで走ってるのに、石垣島に47年もかかった自分に、電話がかかってきた。平シユジロウ君!!! 確か2つ下。懐かしい。内間から携帯を聞いたという。ひとつ下の与那原ミチオ君も元気であるとのこと。全学年が知り合いになれる。これが聖母の騎士学園のいいところだとも思った。

～関東支部便り～ 関東支部事務局便り

関東支部事務局 徳永義雄

2025年度関東支部、 同窓会を開催しました

「来年もこのような同窓会をやりたいと思いますがいかがですか？」
みんなの賛成と拍手がわきおこりました。

6月28日土曜日午前11時から感謝のミサは赤羽教会主任神父様の平神父様、赤羽修道院院長様の田端神父様、斉藤助祭の3名で執り行われました。忘れかけていたラテン語の歌ミサで母校を懐かしく思い出しながらミサにあ



▲感謝のミサ(中央:平主任神父様、右側:田端神父様、左側:斉藤助祭)

ずかり、ミサ後の同窓会記念撮影は新しく建立された聖コルベ神父様の像を囲んでの撮影となりました。

出席者は昭和24年聖母の騎士学園中学校を卒業された94歳の花田さんをはじめ、遠くは北海道帯広から駆けつけてくれた松崎さんを含め15名の出席者となりました。先輩達が天国に召されて残されたものたちで同窓会のともしびを守っていかなければなりません。

そして、今回の同窓会で大きな収穫があったのが将来の同窓会を支えてくれるメンバーが見つかった事です。少し若返りができそうです。

毎年6月の最後の土曜日を同窓会の日と定めているので来年も皆さんお誘い合わせの上ご参加下さい。お待ちしております。

赤羽教会が75周年を迎えました

いつもお世話になっている赤羽教会をご紹介したいと想います。

1949年(昭和24年)8月15日に小教区として正式に認可され赤羽教会が誕生しました。それから昨年の2024年で75周年を迎えたこととなります。この記念すべき年に合わせて教会や信徒会館も外装が一新され、教会の前庭もきれいに整備されました。

懇親会に先立ち、平神父様から75周年記念誌を同窓会参加者全員にいただきました。感謝にたえません。

◀新しく建てられた聖コルベ神父様の像。左手に聖母の騎士誌を掲げています。像の説明には、『聖コルベ神父(1894-1941)「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない」(ヨハネ福音書15章13節)』『カトリック赤羽教会創立75周年、製作・寄贈:山下和稔修道士(コンベンツアル聖ランシスコ修道会)』との文字が刻まれています。



▲感謝のミサ後の記念撮影、新しく建てられた聖コルベ神父様の前で平神父様と一緒に。

ホームページも充実していて、私も興味深いところはアーカイブスの「王子神学校の一日」。平神父様が古いフィルムを見つけ出しそれをデジタル化してアップしています。

新しい一万円札の肖像に選ばれた渋沢栄一が住んでいた土地を譲り受けた

ところのようで、そこでは修道服を着てテニスをしたり、野菜作り、庭の手入れをしているシーンはとても興味深く拝見できます。

あと25年元氣だと記念すべき百周年を迎えることができます。それこそ立派な記念誌ができることでしょうね。



▲庭の隅に日本庭園が作られ、将来アッシジの聖フランシスコの像が建てられる予定です。



▲赤羽教会の門の前の藤棚、花が咲く来年の春が楽しみです。



◀▲駐車場が整備され車が止めやすくなりました。

「長崎便り」 つづやきく学校を思う

長崎在住 廣島誠一郎

よくもまあ、こんな狭隘な地に学校があるものだ。山肌にへばりつくように建てられ、地上二階・地下二階建てなのか、四階建てなのかよく分からない校舎。たった30m四方くらいの広さで、整備をしてもすぐに雑草に覆われ、イノシシが穴を掘りまくって役に立たない運動場。長崎大水害の時に校舎裏から鉄砲水が噴出し、その後は開渠水路として整備されたが大雨が降るたびに濁流と化す、学校と幼稚園を隔てる通称水無川。鬱蒼として雑木林のような校庭。いつの間にか果樹園になったテニスコート。外壁の塗装がはげた古い校舎。狭い教室。開けにくい窓。薄汚れた校内の壁。雨漏りする体育館。何の魅力も無い設備。

でも、私はこんな学校に定年まで勤めた。周囲の学校を見て、いいなあと思ったことは何度もあったが40年以上勤めた。それは、素朴な生徒たち、優しい素直な生徒たちに囲まれて、居心地がよかったからかもしれない。少数の生徒と、弟のように息子のように接することができたからかもしれない。かっこいい言い方をすれば、この生徒たちのために働き続けたいと思った。学校を発展させたいと思った。そして、志を同じくする同僚がいた。生徒のために燃える人たちがいた。

生徒をこよなく愛した博多屋先生、留学や英検受験、バグパイプなどで生徒たちに様々な経験をさせた熊川先生、教務部長として生徒の進路実現のために尽力した小島先生。バドミントンを通じて運動の楽しさを教えた飯田先生。その他にも短い期間だったが、学校の発展のため尽くしてくれた先生方がいた。

私も社会科、担任、剣道部顧問、生徒指導部などを担当した。時にはホトケに、時には鬼になって厳しく指導した。鬼になっても生徒はついてきてくれた。そして、建物が古くても綺麗であればと、「子弟同行」便所掃除も外庭掃除も生徒と一緒にやった。生徒もそれに応えて協力してくれた。しかしそれも昔のこと。同僚もほとんどがいなくなった。私もそろそろ引退しよう。この学校に誇れる設備は何もない。しかし不思議だ。中学時代に不登校やいじめを経験した生徒の多くが、安心して学校生活を謳歌している。元気な生徒も内向的な生徒も病気がちな生徒も伸び伸びと勉強している。来るものを温かく迎え入れる雰囲気がある。聖コルベが建てた学校に、教会の鐘の音が響き、小鳥がさえずる。聖地ルルドでは巡礼者の祈りが聞こえる。他の学校にはないものが、ここには、ある。

～奄美支部便り～

大笠利教会 献堂・落成

祈りと犠牲は天に届き大きな恵みとなった！

修復されたアンゼラスの鐘



復活



モダンな教会が誕生した

村中にお告げを知らせる！



アンゼラスの鐘祝別



飲めや、踊れや、大いに喜べ



裏方で活躍する騎士たち



溢れる恵みを分かち合う



「奄美支部便り」



間もなく取壊される教会



最後のミサに集まる信者さん



カプチン会からコンベンツアル会へ宣教は続けられる



久保神父 谷崎管区長 内野神父



復活



この聖堂で最後の祝福

終わりから始まりへ
これまでを振り返るスライド鑑賞



～奄美支部便り～

恵川隆一郎氏 帰天



同級生たちからは神父になって欲しかった、恵川龍一郎が突然帰天した



同窓生の水野兄弟、恵幸一郎、親しい友人が思い出を語り、家族葬形式で祈りを捧げた。



～奄美支部便り～

大笠利教会建設にあたって

大笠利教会信徒代表 新納 啓昭

2019年亡き教皇フランシスコが来日の頃より教会建設の話が本格化しました。

教会建物が思った以上に劣化が進み何度も検討を重ねてきました。

約50年前に建てられた教会は、月日が経ち老朽化が進み 何度も補修したにも関わらず、屋根にも亀裂が生じて危険を伴う恐れが出ました。



修理よりも新築へと建て替えに踏み切った次第です。資金調達では色々苦慮しましたが多くの皆様からの温かい励ましのお言葉、ご寄付を頂き本当に有難う御座いました。

特に、聖母の騎士同窓会には、押川司教様の『宣教師たちの手紙』の新刊本販売の売上の全額を司



教様の意向に従って、笠利教会建設資金にご寄付頂きました。

押川司教様、そしてご協力頂きました、全国の聖母の騎士同窓会の方有難う御座いました。

また、私達信者一同も毎月の積み立てを行うことで教会献堂の目的達成に至りました。



これからも私たち笠利教会共同体として、意識と自覚と連体をもち「百人の一步」まさにそこに行動があり時の印として迷う時こそ、人が進歩する時であると思います。これから私達は神様のお導きを信じ日々祈りと行動の内に共に頑張っていきたいと思っています。

祈りと犠牲が天に届き、
献堂式を迎える事が出来た。



～奄美支部便り～

JUBILEE 2025 希望の巡礼者 奄美大島教会巡礼と観光の旅

奄美支部 田下 幸次（鹿児島）

大聖年の今年、鹿児島県志布志市の志布志教会では、奄美大島の教会巡礼と観光を計画し 12 名の信者で 5 月 16 日～ 19 日三泊四日の日程で奄美へ行きました。

前日から桜島の大爆発で飛行機の離陸が 40 分も遅れたけれど無事に奄美空港に着きました。梅雨に入った奄美でしたが、天気は私達を歓迎しているかの様な上天気で一同安心しました。

最初に訪問した教会は昨年献堂した大笠利で、藤沢神父さんの計らいで御ミサに与り、ミサ後は信徒会館で笠利の信者さん達が準備してくれた島の食べ物でお茶会をした。85 歳とは思えぬ藤沢神父さんのすばらしい歌声に楽しい時間を過ごすことが出来ました。教会をあとに最北端の用岬を回ってホテルへ向かった。



二日目は、市内のマリア教会から住用の山間教会へ、さらに瀬戸内町へ移動して、砂のない丸い石だけのホノホシ海岸とグラスボートで海底見学をして古仁屋教会を訪問した。瀬戸内町から奄美で唯一教会のない宇検村を通り、大和村へ向かった。故西田神父さんが計画して献堂されたログハウス造りの大和浜教会で御ミサに与り、フランシスコ神父さんと三名の信者さんと一緒にお茶会をして知名瀬教会を訪問した。夕方は小宿教会

で歓迎パーティーに参加して、色とりどりの島料理に大満足でした。

三日目は、巡礼指定の聖心教会で九時からの御ミサに与り、信徒と交流のお茶会があった。ここでも婦人会の格別のおもてなしを受けて大感激でした。

さらに続く巡礼教会は、浦上教会、瀬留教会、安木屋場教会、嘉渡教会、秋名教会、芦花部教会まで訪問できた。夜は居酒屋で夕食会をして盛り上がった。

最終日は、有屋の（ハンセン病療養所）にある和光園教会を訪問して、大熊教会へ向かった。ここでも信者さんたちの心のこもったお茶のおもてなしを受けた。郡山名誉司教を囲み楽しい時間を過ごすことが出来ました。そこから龍郷町へ移動して、赤尾木教会、龍郷教会を訪問した。お昼は、龍郷の信者さん宅で丁寧に準備された島の料理のもてなしを受けて大感激でした。さらに笠利町へ移動して今回の最終 21 番目となる平教会でお祈りをして、空港近くの奄美パークに立ち寄り田中一村記念美術館で奄美の自然をモチーフにした巨匠田中一村の絵画に感銘を受けた。その後、奄美空港から鹿児島への帰路についた。

この旅行では訪れた奄美のカトリック教会が辿った貴重な歴史に触れて、併せて奄美の文化を見て、味わって、各地域の信者さんの心からのおもてなしをうけて、大変素晴らしい恵み多い巡礼となりました。



志布志カトリック教会 奄美大島巡礼の旅 2025-5-16～19
名瀬聖心教会

く。修道士さんが、クリーニング店主顔負けの腕を振るい全て綺麗に洗濯、乾燥して、夕方学校に持ち帰り各自の棚に入れてくれる。毎日凄い作業で大変な数の衣類だ、81X が私の割り当て番号であった。



夕食後、交代で風呂に入り自習時間になる。あれだけ食べても夜食が欲しくなるもので、日曜日の外出で買い込んだラーメンを密かに作っていた。ある日、萩原神父が血相を変えて自習室に飛び込んで来た。なんと、大量の電気ポットで三階全てのコンセントを使って湯を沸かしていたのだ。あろう事か、聖堂の祭壇脇と香部屋まで使って、自習室はまるでラーメン屋と化し良い香りが充満していた。電気ポットは現行犯その場で全て没収された。神父は呆れて怒る元気も無かったみたいだ。

朝早く起きて、聖堂に入り祈りから一日が始まる。今でもラテン語の聖歌は歌うことができる。この当時の神学生たちには当たり前のことで、懐かしいものである。(サルベレジナ〜♪) 先唱者に続いて直ぐに歌いだし、最後まできちんといける、特にリクエストがなくてもこれでもかと引き続き、(マリアは踏み碎かん、サタンのコウベを〜♪)、と続けて集まりの最後には全員が大声で歌うので、最近の若者たちには不思議に見られている。

長崎を離れて60年近くが過ぎた、同級生の(大石チビ太)(小原イゲ)が帰天している。(富山ゼッペキ)は連絡不能状態。私のクラスが高校入試の第一期生である。中学は13名いたが6名が高校へと分断されたクラスとなった。(山田、吉岡チュー太、市川の英彦山刈り)が通学生で入り、(本村ベンケイ)が途中参入で高校まで卒業させて頂いた。

全寮制の神学校なので普通の学校とは違っていた。卒業生は主に上智大学を目指し、司祭の道へ進んだ。一般生が入るようになって、国立大学に進む者もいた。裏山の他人のみかんを勝手に持ち帰るなど、相当ないたずらもしたが勉強も頑張った。

コルベ神父の学校で何を学んだ? つまりコルベ神父は何を伝えるために、遠いポーランドから長崎・本河内を選び、山を買って開墾して修道院、教会、学校を作ったのだろうか。『月間聖母の騎士』は今も堂々と福音を述べ伝えている。

正確な事は不明だが、ポーランドに帰ったコルベ神父が、【自分は、日本で聖母マリアから確実に天国に行ける】約束を受けたことを一部の修道士に話しておられる、大方の見方では本河内のルルドを作っていた時ではと?

学校創設以来、この学校で学んだ多くの神学生から司祭、修道者が生まれ聖コルベ神父の意思を受け継いで国内、海外で宣教、布教に活躍している。

『何事においても、先ず祈りなさい、聖母の取次を真剣に願うことです。一人では出来ない事でも上手く出来るようになるから。』

学校創立者である聖人が伝えたかったメッセージではないかと思います。コルベ神父が創立した偉大な学校で学んだことは全て、人生の歩みにおいて迷うことなく大きな支えとなり誇りです。

感謝!



～奄美支部便り～

コルベ神父の学校で何を学んだ？

奄美支部 田下 三佐男

学校の坂を上り切った所に、石炭の山が置いてあった。ボイラーで風呂の湯を沸かすための燃料である。入学当時部活動は無く、班別にこの石炭を天秤棒で、本館裏の風呂場に運ぶ作業があった。天秤棒の前後のザルに石炭を載せて階段を上り切ったところで、（おい、降りて来い！）大声に振り向いた、

（プレゼスのマッタ牛）である。仕方なく階段を降りると、これでは少ないからもっと山盛りにしろ！言われた通りにして、再度階段を上って風呂場に運んだ。その日は天秤棒が食い込んだ肩が痛くて寝付けなかった。

また別の日、学校の坂道の途中に昔のままの木造印刷所があり、ここでも定期的に班別の作業があった。うす暗い工場の中で『月刊聖母の騎士』を作るものである。印刷されて折り曲げられた原稿をカバーに挟み込むのである。それを隣のゲラルド修道士に流し、特殊なホッチキス止めがなされる。その後、裁断機にかけられ製本が終了。後は、修道士さんが住所を書いて国内、海外へと発送する。神学生たちには簡単な作業であったが、とにかく数が多すぎた。機械の一部とコルベ神父の事務机は、コルベ館に保存、展示されている。

マチアさん、カシアノさん、ゲラルドさん、ロムアルドさん、ポーランド人の修道士たちは、当たり前で与えられた作業を繰り返していた。朝は早起きで聖堂に入り、熱心に祈りと黙想をしていた。家族と別れ、国を離れて、誰のために、何のため



ために、当時は不思議に思っていた。普段すれ違うたびに【マリア！】と笑顔で呼びかけておられた。最初は戸惑ったが、【マリア！】と挨拶すると、目を丸くしてとびっきりの笑顔が返って来たのだ。

当時、学校には90名程の神学生がいた。一日三回全員で食堂に入り祈りをして、たらふく食べた。なんでも良く食べた。何となく魚は多かった。ある日、調理場に行った。ご飯を炊く釜の大きさを見て驚いた。食べ盛りの若者相手だから当然なのだろう。どこかの田舎で調達した芋なども良く頂いた。休みの日は、お弁当を持って散歩に出かける事があり、自分たちの班が当番の時、弁当作りの前日は大いに張り切った。入れ物の（折り）からはみ出る程ご飯を山盛りにして、おかずも多めに詰め込む、翌日の散歩（月見山）で食べたお弁当は最高に美味しいものだった。普段の苦勞が報われた気分だな。

普段の生活では、お互い正式な名前を呼ぶことはない、（カラス）（トンビ）（ねこ）（ピエロ）、まるでどこかの動物園かな？名付け親もよく分からない、呼ばれた者が普通に返事をしている不思議な光景だ。学校でも、（ペンギン）（モグラ）（山ジイ）（ギンタ）（キック）、失礼ながら先生たちの特徴を良くとらえていた。

（谷ヤンの方程式）は人気があった。戦後、被爆者である永井博士が聖母の騎士で教えておられた。トマスさんが教え子の一人で、私のクラスの理科を担当していた。あの永井博士から影響を受けた聖母の騎士の生徒たちだから優秀な者が多いのは当然と言えるだろう。

洗濯係があった。生徒全員が白い袋に汚れ物を入れておき、坂を下りた曲がり角にある洗濯場に持って行

最近では、チームメイトから頼まれバレーボールのコーチも始めました。練習メニューを考えたりしますが、練習メニューはほとんど自分が学校でやっていた練習ばかりです。練習のメニューを考える時、よく田中先生ならどんな練習をされるのだろうかなんて考えながら、色々な思い出や、一緒に練習した同級生や、先輩方と後輩達の顔がいつも頭に浮かんできて懐かしい気持ちになります。



ドイツからイギリスに戻って色々な悩みがあり、まだ全部は解消されていませんが、新しい友達ができました。妻も新しい職場に慣れ、子供たちも新しい学校に慣れているようなので、とても充実した生活を過ごしています。同窓会の皆様、どうかお元気でお過ごしください。



～奄美支部便り～

イギリスでの挑戦

奄美支部 イギリス在住 励 倫太郎

同窓会の皆様、いかがお過ごしでしょうか。去年の7月にドイツからイギリスに戻ってから、もう10ヶ月が過ぎました。非常勤ですが、以前勤めていた部署で勤務しています。イギリスの生活にはすぐに慣れることができました。

私たちの子供たちも、新しい学校に慣れているようです。一学期はウェールズ語の語学学校に通っていました。北ウェールズには、海外からの子供達や、イングランドから来た英語しか話せない子供達のために、ウェールズ語の語学学校があります。驚いたことに、二人ともウェールズ語をある程度覚えていたので、新しい小学校での、ウェールズ語での授業に二期からは問題なかったようで、少し安心しました。

イギリスに戻って数ヶ月後、地元のバレーボールチームに参加し、またバレーボールを始めました。5月



にはチームと一緒に大会に参加しました。その大会はイギリスとアイルランドの間にある、マン島という小さな島で開催されました。マン島は、TTレースと呼ばれる世界的に有名なモータースポーツが毎年開催されている島です。イギリスの一部ではなく、いくつかの王室属領の一つであり、独自の議会が島の政治を行っています。マン島独自のパスポートも発行されているようで、地

元の人の話では、海外旅行の際、マン島のパスポートはあまり知られていないため、入国審査でその正当性を説明するのが大変だそうです。

私はチームメイトと一緒にリバプールから船でマン島へ行きました。英国の一部ではないと知っていたの



で、念のためパスポートを持って乗船しましたが、パスポートのチェックはなく入国できました。日本のパスポートはヨーロッパで非常に信頼されているため、そこまで心配はしていませんでしたが、少し安心しました。大会では、見事に2位になりました。初心者の多いチームなので、チームメイトは皆満足そうでした。



聖母の騎士高等学校

〒850-0012 長崎市本河内2-2-1 Tel.095-823-4523



「学園劇」復活！

コロナ禍による4年間の休止を経て、11月19日、崎濱理事長先生の脚本による「聖コルベ殉教」を公演いたしました。通算17回目、コルベ神父の物語ですが、今回は証言を基に、アウシュビッツでのコルベ神父の最期を描いています。しかし、生徒はもちろん初心者ばかり、1・2年生17名でスタッフ・キャストをこなします。教員も不

慣れでしかも人数は以前の半分と、不安要素を挙げればきりがありません。しかし、それら全てを払拭する生徒の頑張りにより、無事やり遂げることができました。つらかった練習も、本番前の緊張も全てを乗り越え、自信に満ちた笑顔を見るたびに、「やってよかったな」と嬉しくなります。今年9月20日には、ようやくナイトフェスティバルも、従来の形で実施します。ぜひ、皆様もお越しください。

●同窓生の皆様、ご無沙汰しております。この一年間の母校の様子をお知らせいたします。

学園だより



教頭
千住由貴子

クリスマスケーキ ありがとうございました！ ございました！

12月のツリー点灯式では、今年も同窓会の皆様からのクリスマスケーキをいただきました。ありがとうございました。現在はカトリックではない生徒が大多数ですので、クリスマスの意味を学ぶ大切な機会となっています。ま



母校でお待ちしております

た、キャンドルとツリーでいつもと違う学校の雰囲気も本校ならではの行事です。

昨年も多くの同窓生の皆様が、来校されました。数十年ぶりの同窓会の前には皆さんで、お仕事で来崎された合間を縫ってお一人で、教育実習で長崎に帰ってきたから、三月に卒業したばかりだけど、新しい生活が落ち着いてきたので、などなど。

「懐かしいな、行ってみようかな」そのような時は、ぜひご連絡ください。お時間が合えば、旧寮や旧聖堂などもご案内いたします。皆様のご来校をお待ちしております。

映画情報・長崎編

長崎

―閃光の影で―



この夏、長崎を舞台にした映画が3本上映されますが、そのうちの1本を紹介します。原爆投下後の長崎の悲惨な状況下の中で活動した3人の看護学生の物語です。監督、共同脚本は、松本修平氏。この方は、本校卒業生の松本修さんのご子息です。公開に先駆けて、ピースアリーナで行われた試写会でのスピーチがニュースで放映されましたので紹介します。



映画「長崎―閃光の影で―」7月25日長崎先行公開／8月1日全国公開
配給：アークエンタテインメント／©「長崎―閃光の影で―」制作委員会

「自分は長崎の時津町の出身で、祖父は、もう亡くなりましたが被爆者です。映画の世界に入った時、いつか長崎の原爆の事を描きたい。それを通して祖父の事を描きたいと思っていました。このジャケットは夏物ではなく、祖父の形見です。今日は祖父と一緒にこの場を見届けられたらと思います。祖父は僕には被爆体験を話してくれたことはありません。晩年ですね、被爆者の会で平和活動をしていました。で、この映画で祖父の続きを今、自分がやってるんだ、という思いでやっています。80年間被爆者の方と平和を願う方々が、このように平和への思いを

伝えてなかったら、ひょっとしたら今の平和はなかったかもしれないと思います。なので、繋いでくれた灯を僕たちもやっぱり続きをやっていかなければならないと思っているし、実際、世界中では、まだ戦争で苦しんでいる人がいる。80年前の事を描いている作品ですけど、今苦しんでいる世界中の人達に思いを馳せて頂きたいと思っています。僕としては、原爆というすべてを破壊してしまうという、きのこ雲の下で、まったく真逆の、人の命を救いたいという思いに奮闘した方々を描くのは本当に重要であると思いました。原爆は人類が犯した過ちだと思っていますが、その中でも、やっぱり看護師さん達を描くことによって、人間というのは偉大な存在であることも同時に描けたかと思っています。僕は、長崎で生まれ、育ち、多くの被爆者の方々、そして、長崎の方々を守られながら育ったので、平和への祈りの思いを受け継ぐ事が無ければ、この映画を作る事はなかったと思います。ですので、この映画をまず長崎の方々にご覧いただきたいと思っています。今は、感無量です。ありがとうございました。」

(原文のまま)

個人的な話になりますが、私自身も、「平和ガイド」として修学旅行生を対象に原爆遺構などの案内を通して

―他2本の映画も注目です!―
●夏の砂の上 主演・オダギリジョー
7月4日全国公開
●遠い山なみの光 主演・広瀬すず
9月5日全国公開

原爆の恐ろしさを伝える活動を始めて3年目になります。現役時代には忙しさを理由に真剣に平和教育に関わらなかった反省があり始めたものです。

大先輩の「平和の語りべ」故トマス小崎修道士は、コルベ記念館や出張公演でご自分の被爆体験を通して原爆の恐ろしさ、そして平和の尊さについて訴えておられました。直に自分の被爆体験を他に伝えるインパクトは非常に大きかったと思いますし、大きな貢献をしてこられたと思います。

現在、被爆者の高齢化に伴い、代わりに被爆者の体験を伝えるという活動があり、転載記事にあるように横山理子さんという方が、トマスさんの「交流証言者」として被爆体験を語っています(次頁の長崎新聞の切り抜きをぐらんださい)。今の世界情勢を思うと、何だか怖いですね。今の平和が突然壊れてしまうようで。

この映画は、必ず見て、誰かに大切なことを伝えたいと思います。過去の事実を知り、平和の大切さを誰かに伝えることが希望へと繋がると思っています。

「くまがわ」

●長崎新聞 2025(令和7)年6月23日 日曜日より転載

摘 要	収 入	支 出
前年度繰越金	1,130,370	
会費	177,000	
寄付	252,000	
同総会入会金	33,000	
雑収入	75,357	
会報印刷代		234,300
会報送料		102,323
通信費		10,000
事務用品費		3,400
供花代(3件)		52,000
学園劇援助金		50,000
クリスマスケーキ		20,000
会議会場費		2,000
卒業記念品代		11,582
奨学金		120,000
御ミサ御礼		10,000
合 計	1,667,727	615,605
残 高	1,052,122	

令和6年度決算報告書

摘 要	収 入	支 出
前年度繰越金	1,052,122	
年会費	210,000	
寄付	200,000	
同窓会入会金	30,000	
同窓会奨学金		120,000
会報印刷費		250,000
郵送費		110,000
奨学金		120,000
通信費		10,000
クリスマスケーキ		20,000
卒業記念品		10,000
事務用品費		5,000
予備費		100,000
合 計	1,492,122	745,000
次年度繰越金	747,122	

令和7年度予算計画書

被爆80年

天国のトマさん 聞こえてますか

小崎登明さん交流証言者

横山理子さん 長崎で講話デビュー



小崎さんから託された絵画などを使い、被爆体験を語り継ぐ横山さん
＝長崎市平野町、長崎県療育科館

市本河内 の修道士となり、1994年から語り部を始めた。洗礼名にちなみ「トマさん」と親しまれた。

横山さんは著書を通して小崎さんを知り、長崎平和推進協会職員だった2020年11月、小崎さんに交流証言者となることを申し出た。21年初め、腰痛が元気づけられなかった小崎さんの闘病を支えながら体験を聞き取り、最期をみとった。その後も交流証言者を目指し、小崎さんの生涯について学びを深めてきた。

初講話では、小崎さんが母親との最後の別れとなった「あの日の朝」から始まり、被爆後、助けを求める子とを振り切つて送った悔恨などを、小崎さんから託された日記や資料、写真、小崎さんの証言者横山さんが初めて、

高師の被爆者に代わり、家族や家族以外の希望者が体験を語る長崎市の家族・交流証言者は今月現在59人(家族15、交流44)。小崎さんの証言者は横山さんが初めて。

（高比良由紀）

阿部さんは世界全体が右傾化し、自国中心主義に走る風潮が第二次世界大戦前に似ていると危惧し、「彼らの生き方を伝えることが平和へのメッセージになればよい」と語っています。 「くまがわ」

コルベ神父様らの生きざまに光を当てたノンフィクション、「アウシュビッツの聖人を追いかけて」(英語版「The Martyr and the Red Kimono」)の日本語版が出版されました。著者は、英国在住のジャーナリスト阿部菜穂子さん(67)で、昨年英語で発表し、英紙タイムズなどに書評が掲載され、反響を呼んだそうです。戦争の記憶が風化する中、神父らの体験を継承しなければとの使命感から執筆されたとのこと。

阿部菜穂子

アウシュビッツの聖人を追いかけて



「私はこの日本人の身代わりになりたい」

86

岩波書店・3,400円(税別)
四六版・上製・372頁
ISBN 9784000617093

新刊本の紹介です。
アウシュビッツの聖人を追いかけて
〔ある被爆者と校守の物語〕

事務局より

●同窓会奨学生

今年度は、1名の応募がありました。母子家庭で5人兄弟であるとの報告がありましたので採用としました。この奨学金は、同窓会奨学金の趣旨に賛同して頂いている、ある京都在住の卒業生の方が、毎年8万円を寄付して下さいます。この方からは、これまで10年以上も寄付を頂いており、お陰様で、これまで多くの在校生を援助することができています。卒業しても後輩たちの事を思ってくださいる篤志には本当に頭が下がります。ありがたいですね。

●ミニだより

いつもありがとうございます。

鹿児島市 安田 誠

英彦の泉は若返りの薬です。

桶川市 斎藤 優

いつもありがとうございます。

五島市 熊川博昭

▼「英彦の泉」ありがとうございます。毎回楽しみにしておりますが、今回は特に楽しく読ませて頂きました。同級生の二人、ありがとうございます！

堺市 竹口良巳

楽しく読んでます。「英彦の泉」を

●総会休止のお知らせ

今年度の総会は諸事情により休止とさせていただきます。

●崎濱神父様との思い出の原稿を募集します

次号で追悼特集をしたいと考えています。多くの人が色んな思い出等をお持ちだと思います。是非、一言でも結構ですでお寄せください。

メール: marys-knights-union@ymail.ne.jp



終わらせないように、少し余分に入れます。

鎌倉市 平松壽護

▼事務局の皆さん、いつもありがとうございます。

長崎市 赤本喜代治

▼読んで楽しかった。ありがとうございます！

諫早市 山内春治

▼「聖コルベ 愛と殉教」劇が上演され、高評価を得ることが出来たのと。こちらまで嬉しく、誇りに思います。

調布市 田辺久義

▼便りをいつもありがとうございます。嬉しく読ませて頂いております。

札幌市 吉武 勉

▼すみません。遅くなりました。

長崎市 永藤森哉

▼いつもありがとうございます。

東京都 川口雄二

2026年度 中学1年生、高校1年生を若干名募集します。

小神学生募集

使徒パウロが「聖霊によらなければ、だれも「イエスは主である」とは言えないのです。」(コリント12、3)と言われたように、私たちの召命への応答も「聖霊の働き」によるものです。聖霊の働きに耳を傾けてみませんか。



コンベンツアル聖フランシスコ修道会
聖コルベ志願院
聖母の騎士修道院(李(リー)神父)まで

〒850-0012 長崎市本河内2-2-1 [聖母の騎士修道院内]
TEL 095-828-0541 / FAX 095-820-3754
Eメール: ofmconvjp@gmail.com



編集後記



「英彦の泉」第29号をお送りします。

まずは、谷崎新校長先生のご報告にありますように、胆のつがんで療養中でした崎濱宏美前校長先生が7月19日に帰天されました。生前、病院へ面会に伺った際には、「やっと、ゆつくり釣りにも行けると思ってたんだけど……。でも、84歳まで生かせて貰って、神様に感謝しとるよ」と仰っていました。

追悼の意味も含め、これまでのエピソードなどを簡単に紹介させて頂きます。

神父様をひと言で言い表すと、「祈りの人」だと思います。本当によくお祈りをする方でした。ほぼ毎日、あの急な坂を上りルルドへとお祈りに行かれていました。ルルドを含め、あの周辺の山は、誰も寄せ付けない「縄張り」であったと思います。

幼稚園園長も兼任されていましたが、非常に忙しい日々を過ごされていましたが、生徒や園児たちには一様に沢山の愛情を注いでおられました。前述の通り自然が大好きで、高1の「宗教」の授業は、なぜか裏山の探検？が多く、収穫はザボンや夏みかん等々。私の子供が幼稚園児だった頃から今でも、園児一人ひとりに手製のピーピー

笛をプレゼント！孫二人も、この恩恵にあずかりました。

中学の修学旅行は、先生の故郷、福江島の半泊。生徒たちはキャンプや釣り、それから地引網を楽しみ、獲物でバーベキュー！網に絡まった亀を救出したこともありました。高校生は、生徒のアイデアから生まれた「無人島への修学旅行」。それを実現すべく、先生方を引き連れ無人島へ。そして、十分な下調べをしたあと、なんと本当に実現した上五島の無人島・祝言島でのサバイバル体験。3泊4日のテント生活と食料調達。厳しさの中で、楽しいのかどうかかわからない生徒もいたようでしたが、「仲間」との結束が強くなったのは間違いありませんでした。上五島の旅館に辿り着いた後の温泉がたまらなく贅沢なものに感じられました。ただ、五島出身の大水神父様は、中高を通して、修学旅行は五島！という事になり、在学中に他県の土を踏むことがなかった、という被害者もいました。しかしながら、全員、「大自然に学び愛せよ。而して創造主に近づけ（学園訓）」の前半部分は少なくとも確実に実践したと思います。

著書の「石路の詩（つわぶきのうた）」では、ご自分の経験と宗教者の目を通して、人や自然の中の小さきもの、弱きものに対して温かく愛情に溢れた言葉で癒しを与えて下さるような文章が

思い出されます。等々、エピソードは枚挙にいとまがありません。お通夜には沢山の方が集まって下さり、本河内教会が一杯になりました。生前の生き様が感じ取れると感じました。これまでの学校と同総会活動への貢献に感謝の気持ちを捧げたいと思います。

赤本会長の病氣療養に伴い、今年度から里脇岩男さんが新会長を引き受けて下さることになりました。これまでも母校に様々な面で多大な貢献をしてくださっている方です。しっかりと支えていきたいと思っています。さて、本部役員の高齢化は否めず、来年古希を迎えるというのに、とうとう私は、実質一番の若手になってしまいました。また、先輩方も病氣療養中の方が多く、実働部隊は、窄口副会長と私だけという状況です。窄口さんは、生徒募集用のポスターやパンフレット配布でたくさんの方の教会等を駆け回り回っており、相変わらず母校に貢献しています。という事で、必然的に会報は私が……、という状況です。

昨年の同窓会理事会で、今年度は会報を発行しないと決定していたのですが、5月になると、奄美大島の田下さん、東京の徳永さんから、「原稿集まりそう？」作家の阿部君から、「出稿してもいいですか？」等の「問い合わせ」があり、折角ゆつくりしようと思っていたのに、結局、発行せ

ざるを得なくなりました。特に、田下さんの、「ミミだより！あれがすべてよ。待ってる人がいるんだから！出した方がいいんじゃない？」が、殺し文句となり、今こうして皆さんが手にしているわけです。それと、もう一つは、崎濱校長先生の訃報を皆さんに報告する必要があったから今回も発行することになっていたのではないかという不思議さも感じています。私の本の架にあるシスター江角ヤスさんの言葉、「マリアさまいやな事はわたくしがやるこんで」を、最近、「嫌なこととはどなたかが！」と思う事が多々あるのですが、そんな同総会活動に参加してくれる若手！誰かいませんか？少しでも興味がある方は、ご連絡いたします。それから、原稿依頼を受け取られましたら、「はい、喜んで！」という返信を頂けると嬉しいですよ。

（くまがわ）

聖母の騎士学園同窓会

（令和7年度本部役員名簿）

会長	里脇岩男
副会長	窄口富行
顧問	木場田友次
会計監査	赤本喜代次
書記・会計	熊川武俊
事務局	宮城信愛
理事	赤尾城司
※事務局本部：聖母の騎士高等学校	